

日高山と十勝平野

十勝平野は、日高山脈から東方へ、大雪山系から南方へ、太平洋へと広がっています。北海道（83,424km²）全体の約 10 分の 1 の広さで、北海道最大級の農村地帯です。十勝平野の形成は、大陸プレートが衝突して日高山脈が誕生した約 1300 万年前に始まりました。

プレートの衝突

ユーラシアプレートと北アメリカプレートは衝突の際に上方へと押し上げられ、北アメリカプレートは曲がり、ユーラシアプレートの上に乗る形となりました。日高山脈は、プレートが衝突した境界沿いに形成されました。北アメリカプレートが曲がったことで、日高山脈南東側に丘ができ、その間の陸地が沈んだことで構造盆地が形成されました。この時の盆地がのちの十勝平野なのですが、始めは太平洋の海底にあり、今日よりもずっと内陸へと伸びていました。何百万年もかけて、徐々に湿地帯が形成され、それが今日の十勝平野になりました。

地質学的過程の痕跡

とかち鹿追ジオパークは、日高山脈の形成と十勝平野の形成のプロセスを明らかにします。

扇ヶ原展望台

扇ヶ原展望台からは、日高山脈の山頂を背景に平野の景色を楽しむことができます。標高

約 2,000 メートルの山々は、南北におよそ 150 キロ伸びています。ポロシリ山は、標高 2,053 メートルと、その中でも最も高い山です。展望台からの景色は、十勝平野の規模と構造プレートの仕組みをうかがわせるものです。

下鹿追亜炭層

亜炭とは、沈殿物が堆積した結果として徐々に圧縮・熱せられた植物の部分的分解により、何十万年もかけて形成される可燃性の堆積岩です。褐炭と呼ばれることもあり、炭素濃度が高い高等級の炭よりも若いことが多いものです。複数の亜炭床が、鹿追南部の然別川沿いに露出しています。このような亜炭床の存在は、湿地帯や入り江が入れ替わりながら、鹿追の各所や南側のエリアを長い間覆っていたことを示しています。